

国際的なテロリズムの防止及び根絶のためのアフガニスタン復興支援等に関する特別措置法案要綱

第一 総則

一 目的

この法律は、平成十三年九月十一日にアメリカ合衆国において発生したテロリストによる攻撃（以下「テロ攻撃」という。）に関連して採択された国際連合安全保障理事会決議第千六百五十九号を踏まえ、アフガニスタンにおける武装集団が行っている武器を用いた不法な抗争を停止し及びその停止を維持する旨のアフガニスタン政府と当該武装集団等との間の合意の形成の支援その他アフガニスタンの国内における安全及び安定の回復に資するための措置を講ずるとともに、アフガニスタンの国民の生活の安定と向上に向けた自主的な努力を支援すること等により、我が国がアフガニスタンの復興の支援を通じて国際的なテロリズムの防止及び根絶のための国際社会の取組に寄与し、もって我が国を含む国際社会の平和及び安全の確保に資することを目的とすること。

（第一条関係）

二 定義等

1 この法律において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによること。

(第二条第一項関係)

① 治安分野改革支援活動 アフガニスタンの復興に関する二千六年の協約及びその附属書を承認し、並びにその実施をアフガニスタン政府及び国際社会に対して要請する等の国際連合安全保障理事会決議第千六百五十九号に基づき、アフガニスタン政府又は国際連合が行うアフガニスタンの国内における安全及び安定を回復するための不法な武装集団の武装解除、警察組織の再建その他の治安分野における改革を支援するために第三により我が国が実施する措置をいう。

② 人道復興支援活動 国際連合安全保障理事会決議第千六百五十九号に基づき、アフガニスタン特別事態(テロ攻撃に対応してアメリカ合衆国その他の諸外国により行われたアフガニスタンにおける武力行使及びこれに引き続く事態をいう。以下同じ。)によって被害を受け若しくは受けるおそれがあるアフガニスタンの住民その他の者(以下「被災民」という。)を救援し若しくはアフガニスタン特別事態によって生じた被害を復旧するため、又はアフガニスタンの復興を支援するために第三により我が国が実施する措置(①に掲げるものを除く。)をいう。

③ 関係行政機関 次に掲げる機関で政令で定めるものをいう。

イ 内閣府並びに内閣府設置法第四十九条第一項及び第二項に規定する機関並びに国家行政組織法
第三条第二項に規定する機関

ロ 内閣府設置法第四十条及び第五十六条並びに国家行政組織法第八条の三に規定する特別の機関

④ 人道復興関係国際機関 国際連合難民高等弁務官事務所その他国際連合の総会若しくは安全保障
理事会によって設立された機関若しくは国際連合の専門機関又は我が国が締結した条約その他の国
際約束により設立された国際機関であつて人道復興支援活動に関するものとして政令で定める国際
機関をいう。

2 治安分野改革支援活動として実施される業務は、次に掲げるもの（これらの業務にそれぞれ附帯す
る業務を含む。）とすること。
(第二条第二項関係)

① 不法な武装集団の武装解除の履行の監視及び当該武装解除の履行により武装を解除された者の社
会復帰等の支援

② ①に掲げるもののほか、警察組織の再建その他のアフガニスタンの国内における安全及び安定を
回復するための治安分野における改革に対する支援

3 人道復興支援活動として実施される業務は、次に掲げるもの（これらの業務にそれぞれ附帯する業務を含む。）とすること。
（第二条第三項関係）

① 被災民の生活若しくはアフガニスタンの復興を支援する上で必要な道路、水道、農地、かんがい排水施設等の農業用施設その他の施設若しくは設備の復旧（農地にある地雷の除去を含む。）若しくは整備又はアフガニスタン特別事態によって汚染その他の被害を受けた自然環境の復旧

② 医療（防疫上の措置を含む。）

③ 被災民に対する食糧、衣料、医薬品その他の生活関連物資の輸送又は配布

④ 行政事務に関する助言又は指導

⑤ ①から④までに掲げる業務に類するものとして政令で定める業務

第二 抗争停止合意の形成の支援その他アフガニスタンの国内における安全及び安定の回復に資するための措置

政府は、第三によるもののほか、国際社会の協力を求めつつ、アフガニスタンにおける武装集団が行っている武器を用いた不法な抗争を停止し、及びその停止を維持する旨のアフガニスタン政府と当該武

装集団等との間の合意（以下「抗争停止合意」という。）の形成の支援その他アフガニスタンの国内における安全及び安定の回復に資するための措置を講ずるものとする。こと。
（第三条関係）

第三 アフガニスタン復興支援活動

一 基本原則

1 政府は、アフガニスタン復興支援職員（六の２のアフガニスタン復興支援職員をいう。）による治安分野改革支援活動及び人道復興支援活動並びに自衛隊の部隊等（自衛隊法第八条に規定する部隊等をいう。以下同じ。）による人道復興支援活動を適切に組み合わせるにより、アフガニスタンの国民の生命及び財産の保護に寄与するとともに、アフガニスタンの国民の生活の安定と向上に向けた自主的な努力を支援するものとする。こと。
（第四条第一項関係）

2 治安分野改革支援活動又は人道復興支援活動（以下「アフガニスタン復興支援活動」という。）の実施は、武力による威嚇又は武力の行使に当たるものであつてはならないこと。
（第四条第二項関係）

3 アフガニスタン復興支援活動については、我が国領域、公海（海洋法に関する国際連合条約に規定

する排他的経済水域を含む。十四の1において同じ。）及びその上空並びに外国の領域（当該アフガニスタン復興支援活動が行われることについて当該外国の同意がある場合に限る。）において実施するものとする。

（第四条第三項関係）

4 人道復興支援活動については、抗争停止合意が成立している地域であつてそこで実施される活動の期間を通じて当該抗争停止合意が維持されると認められる地域又は当該人道復興支援活動に対する妨害その他の行為により住民の生命若しくは身体に被害が生じることがないと認められる地域において実施するものとする。

（第四条第四項関係）

5 自衛隊の部隊等が実施するアフガニスタン復興支援活動は、人道復興支援活動に限るものとする。この場合において、自衛隊の部隊等は、国際連合安全保障理事会決議第千三百八十六号及びこれに関連する同理事会決議第千五百十号その他政令で定める国際連合の総会又は安全保障理事会の決議に基づき、我が国の主体的な判断の下に当該人道復興支援活動を実施するものとする。

（第四条第五項関係）

6 内閣総理大臣は、アフガニスタン復興支援活動の実施に当たり、二の1の基本計画に基づいて、内

閣を代表して行政各部を指揮監督すること。

(第四条第六項関係)

7 関係行政機関の長は、第一の一の目的を達成するため、アフガニスタン復興支援活動の実施に関し、内閣総理大臣及び防衛大臣に協力するものとする事。

(第四条第七項関係)

二 基本計画

1 内閣総理大臣は、アフガニスタン復興支援活動のいずれかを実施することが必要であると認めるときは、当該アフガニスタン復興支援活動を実施すること及び当該アフガニスタン復興支援活動に関する基本計画（以下「基本計画」という。）の案につき閣議の決定を求めなければならないこと。

(第五条第一項関係)

2 基本計画に定める事項は、次のとおりとすること。

(第五条第二項関係)

① アフガニスタン復興支援活動に関する基本方針

② アフガニスタン復興支援活動を実施する場合における次に掲げる事項

イ 当該アフガニスタン復興支援活動に係る基本的事項

ロ 当該アフガニスタン復興支援活動の種類及び内容

ハ 当該アフガニスタン復興支援活動を実施する区域の範囲及び当該区域の指定に関する事項

ニ 当該アフガニスタン復興支援活動を自衛隊が外国の領域で実施する場合には、当該アフガニスタン復興支援活動を外国の領域で実施する自衛隊の部隊等の規模及び構成並びに装備並びに派遣

期間

ホ その他当該アフガニスタン復興支援活動の実施に関する重要事項

③ アフガニスタン復興支援活動の実施のための関係行政機関の連絡調整に関する事項

3 1は、基本計画の変更について準用すること。
(第五条第三項関係)

4 アフガニスタン復興支援活動を外国の領域で実施する場合には、当該外国及び人道復興関係国際機関その他の関係機関と協議して、実施する区域の範囲を定めるものとする。
(第五条第四項関係)

三 国会への報告

内閣総理大臣は、次に掲げる事項を、遅滞なく、国会に報告しなければならないこと。

(第六条関係)

① 基本計画の決定又は変更があつたときは、その内容

② 基本計画に定めるアフガニスタン復興支援活動が終了したときは、その結果

四 国会の承認

基本計画に定められた自衛隊の部隊等が実施するアフガニスタン復興支援活動については、内閣総理大臣は、その実施前に、当該アフガニスタン復興支援活動を実施することにつき国会の承認を得なければならぬこと。

(第七条関係)

五 基本計画の廃止

内閣総理大臣は、アフガニスタン復興支援活動を実施する必要がなくなったと認めるとき又は国会がアフガニスタン復興支援活動を終了すべきことを議決したときは、基本計画の廃止につき、閣議の決定を求めなければならないこと。

(第八条関係)

六 本府によるアフガニスタン復興支援活動の実施

1 内閣総理大臣又はその委任を受けた者は、基本計画に従い、アフガニスタン復興支援活動として実施される業務としての物品の提供（七の1による物品の提供を除く。）を行うものとする。

(第九条第一項関係)

2 内閣総理大臣は、基本計画に従い、アフガニスタン復興支援活動として実施される業務としての業務の提供（七の2による役務の提供を除く。）について実施要項を定め、アフガニスタン復興支援職員（アフガニスタン復興支援活動に従事する内閣府本府（以下「本府」という。）の職員をいう。以下同じ。）にその実施を命ずるものとする事。

(第九条第二項関係)

3 内閣総理大臣は、2の実施要項において、アフガニスタン復興支援活動を実施する区域を指定するものとする事。

(第九条第三項関係)

4 1から3までに定めるもののほか、本府によるアフガニスタン復興支援活動の実施に關し必要な事項は、政令で定める事。

(第九条第四項関係)

七 自衛隊によるアフガニスタン復興支援活動の実施

1 防衛大臣又はその委任を受けた者は、基本計画に従い、アフガニスタン復興支援活動として実施される業務としての自衛隊に属する物品（武器（弾薬を含む。十八において同じ。）を除く。）の提供を行うものとする事。

(第十条第一項関係)

2 防衛大臣は、基本計画に従い、アフガニスタン復興支援活動として実施される業務としての自衛隊による役務の提供について実施要項を定め、これについて内閣総理大臣の承認を得て、自衛隊の部隊等にその実施を命ずるものとする事。

(第十条第二項関係)

3 防衛大臣は、2の実施要項において、アフガニスタン復興支援活動を実施する区域を指定するものとする事。

(第十条第三項関係)

4 自衛隊の部隊等は、外国の領域においてアフガニスタン復興支援活動を実施するに当たり、外務大臣の指定する在外公館と密接に連絡を保つものとする事。

(第十条第四項関係)

5 外務大臣の指定する在外公館長は、外務大臣の命を受け、自衛隊によるアフガニスタン復興支援活動の実施のため必要な協力を行うものとする事。

(第十条第五項関係)

6 2は、防衛大臣が2の実施要項の変更をしようとする場合(3により指定された区域を八の2により縮小する変更をしようとする場合を除く。)について準用すること。

(第十条第六項関係)

八 アフガニスタン復興支援活動の終了等

1 内閣総理大臣(自衛隊の部隊等がアフガニスタン復興支援活動を実施している場合における当該ア

フガニスタン復興支援活動にあつては、防衛大臣。2において同じ。）は、アフガニスタン復興支援活動を実施している場所の近傍において、戦闘行為（国際的な武力紛争の一環として行われる人を殺傷し又は物を破壊する行為をいう。以下八において同じ。）が行われるに至った場合又は付近の状況等に照らして戦闘行為が行われることが相当の確実さをもって予測される場合には、速やかに、当該アフガニスタン復興支援活動の終了を命じなければならないこと。（第十一条第一項関係）

2 内閣総理大臣は、1の場合を除くほか、六の3（自衛隊の部隊等がアフガニスタン復興支援活動を実施している場合における当該アフガニスタン復興支援活動にあつては、七の3）により指定された区域の全部又は一部がこの法律又は基本計画に定められた要件を満たさないものとなった場合には、速やかに、その指定を変更し、又はそこで実施されている活動の中断を命じなければならないこと。

（第十一条第二項関係）

3 アフガニスタン復興支援活動の実施を命ぜられたアフガニスタン復興支援職員又はアフガニスタン復興支援活動の実施を命ぜられた自衛隊の部隊等の長若しくはその指定する者は、当該活動を実施している場所の近傍において戦闘行為が行われるに至った場合若しくは付近の状況等に照らして戦闘行

為が行われることが予測される場合又は抗争停止合意が破棄されるに至った場合若しくは抗争停止合意が破棄されることが予測される場合その他のアフガニスタン復興支援職員若しくは自衛隊の部隊等の安全を確保することが困難であると認められる場合には、当該活動の実施を一時休止し又は避難するなどして危険を回避しつつ、1又は2による措置を待つものとする。 (第十一条第三項関係)

九 配慮事項

内閣総理大臣及び防衛大臣は、アフガニスタン復興支援活動の実施に当たっては、その円滑かつ効果的な推進に努めるとともに、アフガニスタン復興支援職員及び自衛隊の部隊等の安全の確保に配慮しなければならぬこと。 (第十二条関係)

十 アフガニスタン復興支援職員の採用

1 内閣総理大臣は、アフガニスタン復興支援活動に従事させるため、当該アフガニスタン復興支援活動に従事することを志望する者のうちから、選考により、任期を定めてアフガニスタン復興支援職員を採用することができること。 (第十三条第一項関係)

2 内閣総理大臣は、1による採用に当たり、関係行政機関若しくは地方公共団体又は民間の団体の協

力を得て、広く人材の確保に努めるものとする。

(第十三条第二項関係)

十一 行政機関の職員の定員に関する法律の特例

行政機関の職員の定員に関する法律第一条及び第二条の規定にかかわらず、十の1により採用されるアフガニスタン復興支援職員の定員は、政令で定めるところにより、同法第一条第一項及び第二条の定員に含まないものとする。

(第十四条関係)

十二 関係行政機関の職員の派遣

1 内閣総理大臣は、関係行政機関の長に対し、基本計画に従い、アフガニスタン復興支援活動を実施するために必要な技術、能力等を有する職員(国家公務員法第二条第三項各号(第十六号を除く。))に掲げる者を除く。)を本府に派遣するよう要請することができる。

(第十五条第一項関係)

2 関係行政機関の長は、1による要請があったときは、その所掌事務に支障を生じない限度において、1の職員に該当する職員を期間を定めて本府に派遣するものとする。

(第十五条第二項関係)

3 2により派遣された職員のうち自衛隊員(自衛隊法第二条第五項に規定する隊員をいう。以下同じ。)以外の者は、従前の官職を保有したまま、2の期間を任期としてアフガニスタン復興支援職員

に任用されるものとする。

(第十五条第三項関係)

4 2により派遣された自衛隊員は、2の期間を任期としてアフガニスタン復興支援職員に任用されるものとし、アフガニスタン復興支援職員の身分及び自衛隊員の身分を併せ有することとなるものとする。

(第十五条第四項関係)

5 3により従前の官職を保有したままアフガニスタン復興支援職員に任用される者又は4によりアフガニスタン復興支援職員の身分及び自衛隊員の身分を併せ有する者は、内閣総理大臣の指揮監督の下にアフガニスタン復興支援活動として実施される業務に従事すること。

(第十五条第五項関係)

6 内閣総理大臣は、2に基づき防衛大臣により派遣されたアフガニスタン復興支援職員(以下十二において「自衛隊派遣職員」という。)についてその派遣の必要がなくなった場合その他政令で定める場合には、当該自衛隊派遣職員のアフガニスタン復興支援職員としての身分を失わせるものとする。

(第十五条第六項関係)

7 自衛隊派遣職員は、自衛隊員の身分を失ったときは、同時にアフガニスタン復興支援職員の身分を失うものとする。

(第十五条第七項関係)

8 4によりアフガニスタン復興支援職員の身分及び自衛隊員の身分を併せ有することとなる者に対する給与等（十四のアフガニスタン復興支援手当以外の給与、災害補償及び退職手当並びに共済組合の制度をいう。）に関する法令の適用については、その者は、自衛隊のみに所属するものとみなすこと。

（第十五条第八項関係）

9 4から8までに定めるもののほか、8の者の身分取扱いに関し必要な事項は、政令で定めること。

（第十五条第九項関係）

十三 国家公務員法の適用除外

十の1により採用されるアフガニスタン復興支援職員については、アフガニスタン復興支援職員になる前に、国家公務員法第百三条第一項に規定する営利企業（以下十三において「営利企業」という。）を営むことを目的とする団体の役員、顧問若しくは評議員（以下十三において「役員等」という。）の職に就き、若しくは自ら営利企業を営み、又は報酬を得て、営利企業以外の事業の団体の役員等の職に就き、若しくは事業に従事し、若しくは事務を行っていた場合においても、同項及び同法第百四条の規定は、適用しないこと。

（第十六条関係）

十四 アフガニスタン復興支援手当

1 我が国以外の領域（公海を含む。）においてアフガニスタン復興支援活動に従事する者には、アフガニスタン復興支援活動が行われる地域の勤務環境及びアフガニスタン復興支援活動の特質にかんがみ、アフガニスタン復興支援手当を支給することができること。
（第十七条第一項関係）

2 1のアフガニスタン復興支援手当に関し必要な事項は、政令で定めること。

（第十七条第二項関係）

3 内閣総理大臣は、2の政令の制定又は改廃に際しては、人事院の意見を聴かなければならないこと。

（第十七条第三項関係）

十五 国家公務員災害補償法等の読替え

アフガニスタン復興支援手当が支給される者に係る国家公務員災害補償法第四条第二項及び防衛省の職員の給与等に関する法律第二十七条第二項ただし書の規定の適用については、これらの規定中「及び国際平和協力手当」とあるのは、「国際平和協力手当及びアフガニスタン復興支援手当」とすること。

（第十八条関係）

十六 関係行政機関の協力

1 内閣総理大臣及び防衛大臣は、アフガニスタン復興支援活動を実施するため必要があると認めるときは、関係行政機関の長に対し、その所管に属する物品の管理換えその他の協力を要請することができること。
(第十九条第一項関係)

2 関係行政機関の長は、1による要請があつたときは、その所掌事務に支障を生じない限度において、1の協力を行うものとする事。
(第十九条第二項関係)

十七 武器の使用

1 アフガニスタン復興支援活動の実施を命ぜられた自衛隊の部隊等の自衛官は、自己若しくは自己と共に現場に所在する他の自衛隊員、アフガニスタン復興支援職員若しくはその職務を行うに伴い自己の管理の下に入った者の生命若しくは身体(2において「自己等の生命等」という。)を防衛するため又は当該アフガニスタン復興支援活動の実施に対する抵抗を抑止するためやむを得ない必要があると認める相当の理由がある場合には、その事態に応じ合理的に必要と判断される限度で、二の2の②の二により基本計画に定める装備である武器を使用することができること。(第二十条第一項関係)

2 1による武器の使用は、当該現場に在る上官の命令によらなければならないこと。ただし、自己等の生命等を防衛するために武器を使用する場合において当該現場に上官がないとき及び自己等の生命等に対する侵害又は危難が切迫し、その命令を受けるとまがないときは、この限りでないこと。

(第二十条第二項関係)

3 1の場合において、当該現場に在る上官は、統制を欠いた武器の使用によりかえって生命若しくは身体に対する危険又は事態の混乱を招くこととなることを未然に防止し、当該武器の使用が1及び4に従いその目的の範囲内において適正に行われることを確保する見地から必要な命令をするものとすること。

(第二十条第三項関係)

4 1による武器の使用に際しては、刑法第三十六条又は第三十七条の規定に該当する場合を除いては、人に危害を与えてはならないこと。

(第二十条第四項関係)

十八 物品の譲渡及び無償貸付け

内閣総理大臣及び防衛大臣又はそれらの委任を受けた者は、本府又は自衛隊に属する物品(武器を除く。)につき、アフガニスタン政府、国際連合、人道復興関係国際機関又は国際連合加盟国(以下十八

において「アフガニスタン政府等」という。）からその活動の用に供するため当該物品の譲渡又は無償貸付けを求める旨の申出があつた場合において、当該活動の円滑な実施に必要であると認めるときは、その所掌事務に支障を生じない限度において、当該申出に係る物品を当該アフガニスタン政府等に対し無償若しくは時価よりも低い対価で譲渡し、又は無償で貸し付けることができること。

(第二十一条関係)

十九 民間の協力等

1 内閣総理大臣及び防衛大臣は、第三による措置によってはアフガニスタン復興支援活動を十分に実施することができないと認めるときは、関係行政機関の長の協力を得て、物品の譲渡若しくは貸付け又は役務の提供について国以外の者に協力を求めることができること。(第二十二条第一項関係)

2 政府は、1により協力を求められた国以外の者に対し適正な対価を支払うとともに、その者が当該協力により損失を受けた場合には、その損失に関し、必要な財政上の措置を講ずるものとすること。

(第二十二条第二項関係)

二十 政令への委任

第三に定めるもののほか、アフガニスタン復興支援活動の実施に関し必要な事項は、政令で定めるところ。

(第二十三条関係)

第四 アフガニスタン人間の安全保障センター

1 アフガニスタン復興支援活動の迅速かつ円滑な実施を図り、アフガニスタンの人間の安全保障（アフガニスタン特別事態によつて生じたアフガニスタンにおける人間の生存、生活又は尊厳に対する脅威を除去することをいう。）に寄与するため、内閣府に、アフガニスタン人間の安全保障センター（以下「センター」という。）を置くこと。

(第二十四条第一項関係)

2 センターは、次に掲げる事務をつかさどること。

(第二十四条第二項関係)

① アフガニスタン復興支援活動（自衛隊が実施するものを除く。）の迅速かつ円滑な実施を支援すること。

② アフガニスタン復興支援職員の教育訓練に関すること。

3 センターに、アフガニスタン復興支援職員その他の所要の職員（アフガニスタン復興支援職員にあつては、2の事務に従事する間に限る。）を置くこと。

(第二十四条第三項関係)

4 3に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、政令で定めること。

(第二十四条第四項関係)

第五 国際的なテロリズムの防止及び根絶に寄与する我が国の取組に係る基本的な法制の整備その他の措置

一 基本的な法制の整備

国際的なテロリズムの防止及び根絶のための国際社会の取組に積極的かつ主導的に寄与することを含む我が国の安全保障の原則に関する基本的な法制の整備が速やかに行われるものとし、当該法制の整備において、日本国憲法の下での自衛権の発動に関する基本原則及び国際連合憲章第七章の集団安全保障措置等に係る我が国の対応措置に関する基本原則（二千五年九月十六日の国際連合総会決議に規定する大量虐殺、戦争犯罪、民族浄化及び人道に対する犯罪から人々を保護する責任の原則にのっとりた活動が国際連合の下で実施されることとなった場合における当該活動に対する我が国の協力の在り方に関する事項を含む。）が定められるものとする。

(第二十五条関係)

二 国際の平和及び安全の維持又は回復に係る取組を補完する新たな国際連合の組織の設置に係る検討

政府は、国際連合の改革の一環として、国際連合に、国際連合平和維持活動（国際連合平和維持活動

等に対する協力に関する法律第三条第一号に規定する国際連合平和維持活動をいう。)その他の国際連合が行う国際の平和及び安全の維持又は回復のための取組を補完するものとして、国際の平和及び安全に対する脅威が生じた場合に、その脅威に対し直ちに必要な措置を執るための組織が設置されるよう、国際連合、国際連合加盟国等に対し働きかけを行う等積極的かつ主導的に取り組むことについて、検討するものとする。

(第二十六条関係)

三 国際連合の総会又は安全保障理事会の決議に基づくテロ対策海上阻止活動に対する参加の検討

テロ対策海上阻止活動(テロ攻撃によってもたらされている脅威の除去のため、テロリスト、武器等の移動を国際的協調の下に阻止し及び抑止するためインド洋(ペルシャ湾を含む。)上を航行する船舶に対して検査、確認その他の必要な措置を執る活動をいう。)が国際連合の総会又は安全保障理事会の決議に基づき国際連合加盟国により行われることとなったときは、国際的なテロリズムの防止及び根絶に寄与するため、これに参加するために必要な法制の整備について、その要否を含めて検討するものとする。

(第二十七条関係)

四 航行の安全確保

政府は、公海上その他の海上における我が国の船舶の主要な航路帯においてテロリストによる攻撃等から航行の安全を確保することの重要性にかんがみ、海上警察の国際間の連携の促進に努めるとともに、航行の安全に関する条約その他の国際約束についての関係諸外国の誠実な履行の確保を働きかける等、公海における航行の自由の確保のための国際社会の取組に積極的かつ主導的に寄与するものとする事。

(第二十八条関係)

第六 施行期日等

一 施行期日

この法律は、公布の日から起算して一月を超えない範囲内において政令で定める日から施行すること。

(附則第一条関係)

二 この法律の失効

この法律は、施行の日から起算して一年を経過した日に、その効力を失うこと。(附則第二条関係)

三 その他所要の規定の整備を行うこと。

(附則第三条及び第四条関係)